

東秩父村新庁舎建設
設計・監理業務委託に関する公募型プロポーザル
審査結果報告書

令和5年6月

東秩父村新庁舎建設設計・監理業務プロポーザル審査委員会

1 本プロポーザルの実施目的

東秩父村新庁舎建設基本構想（令和5年3月策定）を踏まえて、新庁舎建設基本設計・実施設計及び監理業務を委託するにあたり、本村の地域特性や周辺環境との調和等を十分に理解し、発注者の考え方に柔軟に対応できる高い技術力及び豊富な経験等を有する設計・監理者の選定を行うことを目的として、公募型プロポーザルを実施した。

2 審査経過

令和5年4月26日 第1回審査委員会（第一次審査の実施）
令和5年6月16日 第2回審査委員会（第二次審査（1日目）の実施）
令和5年6月17日 第3回審査委員会（第二次審査（2日目）の実施）

3 審査結果

第一次審査で選定された8事業者から提出された技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施し、審査委員会において厳正かつ慎重な審査を行った結果、次のとおり、最優秀提案者及び次点提案者を特定した。

最優秀提案者	株式会社 遠藤克彦建築研究所
次点提案者	有限会社 SANAA 事務所

4 審査委員会の構成

職名	氏名	役職等
委員長	日色 真帆	東洋大学 理工学部建築学科教授
副委員長	矢沼 裕一	東秩父村副村長
委員	岩城 和哉	東京電機大学 理工学部理工学科教授
委員	古賀 紀江	関東学院大学 建築・環境学部教授
委員	武田 有左	明星大学 建築学部建築学科教授
委員	眞下 均	東秩父村商工会 建設部会長
委員	高野 貞宜	東秩父村議会議員
委員	野口 勝則	東秩父村議会議員
委員※	金澤 圭竹	埼玉県川越建築安全センター 所長
委員	江原 章文	東秩父村建設課長

※金澤委員は、所用により二次審査欠席

5 審査講評

第一次審査では、参加申込書の提出があった8者について設計事務所の能力として技術職員数、有資格者数及び同種・類似業務実績、また、配置技術者の能力として保有資格、同種・類似業務実績、経験年数に関する審査を行った。第一次審査により5者以内を選定する予定だったが、協議の結果、8者全てを技術提案書の提出要請者として選定した。

第二次審査では、8者から提出された業務実施方針及び5つのテーマに対する技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施したうえで、業務実施方針については、業務の理解度及び的確性などの観点から、5つのテーマに対する技術提案書の的確性、独創性及び実現性の観点から評価するとともに、業務参考見積書評価及びヒアリングによる評価を加え、審査委員会委員の合議による審査を行った。

このプロポーザルでは、槻川の清流のほとりで、谷筋の緑豊かな集落がつづく周辺の環境を十分に把握した上で、庁舎とコミュニティセンターを併設する利点を生かした提案が問われた。一方、水害や土砂災害などの災害対策や、建設時と維持管理ともに環境に配慮することが求められた。広い敷地に対し、台数の多い駐車場を含むオープンスペースの優れた計画も期待された。

第二次審査のヒアリングでは、これらの相互に関連する事柄を適切につなげて、東秩父村にふさわしい施設の姿を示しているか、またそれを確実に実現する方策が提示できているかが問われた。

最優秀となった「株式会社 遠藤克彦建築研究所」は、屋根のシルエットがのびやかで風景に溶け込むものであった。東の川に向かって開けた執務エリアをもつ庁舎を、利便性に優れた駐車場近くに配置し、小規模なエントランスホールを挟んで、北をコミュニティセンターとする案であった。敷地レベルをかさ上げた上で建築を川に近づけて配置し、西に駐車場に利用できる緑の屋外ひろばを配置して土砂災害から距離を取るといふ、考え抜かれた計画であった。県産木材を小梁に使用するなどの構造的裏付け、過大な気積の内部空間をとらず西日を避けた室構成、換気の取り方のアイデアなど、パッシブデザインの考えに実現性が高く、空調や照明など設備計画にも説得力があった。

コミュニティセンターのホール機能は、東の川にも西の屋外ひろばにも通り抜けできる屋内ひろばとしており、イベントがない場合にも多様な居場所が展開するというものであった。比較的少人数の利用者がゆるやかに過ごすことが予想される、小規模な自治体での施設のあり方をよく理解していると受け取れた。災害対策本部に使える議場が駐車場を見渡す場所に配置されるなど、防災への検討も十分なされていた。

計画実現のために意見を汲み上げるワークショップの提案は、小規模自治体での経験に裏付けられたものであった。BIMを利用した積算やVE計画は興味深いもので、着実な導入が期待できるものであった。

ヒアリングにおいては、多面的な質問に対し適切な解答がされた。谷がある屋根への維持管理上の懸念についての質疑応答でも、意見を聞き柔軟に検討を進める姿勢がうかがえ

た。東秩父村に深く関わってこの建築を実現しようという意欲と信頼感が伝わるものであった。

審査では、審査委員はいずれも高い評価を与えており、集計結果として際だった点数で1等となったことに異論はなく、最優秀はすぐに決定した。

次点となった「有限会社 SANAA 事務所」は、印象的な形状の屋根が提案された。人々を迎え入れる交流棟とホールを含む役場棟という分棟になっており、それらを周囲に軒下がめぐる屋根がつなぎ、特に2つの棟の間の軒下空間が魅力的な場所になることがわかった。川側には駐車場に使える緑の広がりがつづき、のびやかな景観となっている。山側に土石流を防ぐRCの構造壁を配置するなど構造形式も明瞭で、災害対策も納得できるものであった。

結びに、いずれの提案も、それぞれ独自の視点から説得力ある案を提示しており、構造の考え方、設備の方針についても整合性が取れていた。計画の進め方についても具体性があり、多方面からの質問に対し適切な解答がなされたため、高い水準で審査を進めることができた。本プロポーザルに参加いただいた各社においては、貴重な時間を費やし真摯に努力いただいたことに、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げ、講評として報告する。

東秩父村新庁舎建設設計・監理業務
プロポーザル審査委員会
委員長 日色 真帆